

防災ボランティア活動を受け入れる知恵

— 「受援力」 その3 —

復興時のボランティアとのおつきあい

- 復興計画や新しいまちづくりに、行政や地元の住民だけでなく、ボランティアも一緒に参画することにより、コミュニティが活性化し、よりよい計画づくりやまちづくりにつながります。
- 暮らしの再建には、法律や都市計画、建築などの専門知識が必要になる場合があります。専門家がボランティアとして被災地の再建を支援している例があります。まずは、身近なボランティアや行政の窓口にご相談すれば、解決策やヒントが見つかるかもしれません。
- 避難所での暮らしでお世話になったり、家屋の片付けなどを手伝ってもらったボランティアに、手紙などでお礼のメッセージや近況をお伝えしましょう。関わったボランティアの人たちにとっても嬉しいものです。
- 災害時に会ったボランティアが、被災した地域のファンやリピーターになってもらえるように関係づくりをしておくことが大切です。



こんな活動もあります（足湯）

被災地で行われる「足湯」とは、被災された人たちにたらいに張ったお湯に足を浸けてもらい、軽く手をもみほぐしながらコミュニケーションをとる活動です。会話を通じて、被災地の歴史や伝統、文化、暮らしなどを知ることができるほか、被災された人たちの悩みや不安をやわらげることもつながります。

